

2023年5月14日 礼拝説教要旨

詩編講解説教148「造り主をたたえよ」

詩編148：1～14、ローマ8：18～25

148編も146編から始まる一連の「ハレルヤ詩編」の一つとなります。聖書をご覧になるとお分かりのように「主を賛美せよ」という言葉が繰り返されます。神さまがお造りになられたすべてのものに向かって「主を賛美せよ」と呼びかけるという内容です。構造としては1～6節までが「天」という言葉があるように天からの賛美、そこには御使いがおり、そして日、月、星といった天体があります。また「天の上にある水」とありますが、創世記にはノアの箱舟で「天の窓が開かれて」大雨となる記述があります（創世記7：11）。そのような「雨」も含めて天にあるすべての被造物に対して神さまをほめたたえるように呼びかけています。

続いて7～14節までが「地において」とあるように今度は地からの賛美となっています。そこには「竜」、また「火」や「雹」「雪」「霧」といった気象、「山々」「丘」、「実を結ぶ木」「杉の林」といった植物、「野の獣」「家畜」「地を這うもの」「翼ある鳥」といった動物、小動物、そして最後に「地上の王」「諸国の民」「君主」といった人間。人間も「若者」「おとめ」「老人」から「幼子」まですべての世代がここにいます。そのように148編は天と地に存在する全被造物に及ぶ賛美への招きと理解することができます。

賛美と言いますと、わたしたちは人間特有のものと考えます。しかし聖書はその賛美の範囲を被造物全体に広がっています。人間もその一部に過ぎないのです。ここには被造物全体の調和、ハーモニーがあります。これをオーケストラに譬えることもできるでしょう。一つの楽器だけではオーケストラは成り立ちません。多くの楽器で一つの音楽を奏でます。しかもすべてがバランスよく調和してこそ美しいハーモニーが生まれます。この世界もそういうバランスのもとに成り立っています。何かに特化するとこのバランスは崩れます。

環境問題などはわかりやすいでしょう。生態系の問題、気候変動、地球温暖化の問題は今日避けて通ることはできない問題です。これは何かに偏り、特化する中で生じてきた問題と理解することができます。そこで世界の調和、バランスが崩れるのです。現代になって人類はそのことに気づき始めました。近代の産業革命以降、人類は地球の資源をあるだけ利用し続けてきた。例えば森林を破壊することによって地球環境全体が破壊されるという現実がわかってきたのです。人類は何かを生かすために一方で何かを犠牲にしてきましたが、それによって被造物全体に不協和音が鳴り響くようになりました。

詩編148編は、現代の多様性、共生を意識する時代、エコロジカルな時代だからこそ耳を傾けなければならないでしょう。わたしたちはすべての被造物が神さまを賛美するという意識を取り戻さなければなりません。果たしてこの時代、自然は神さまを賛美しているでしょうか。むしろ悲鳴をあげているのではないのでしょうか。人類の欲望、利益追及のために自然を犠牲にしてきた、そのしわ寄せが今来ています。今の戦争はどれほど環境を破壊しているのでしょうか。考えただけでも恐ろしいことです。「主はそれらを世々限りなく立て、越ええない掟を与えられた」（6節）この「越ええない掟」こそ、被造物がわきまえておかなければならない領域のことです。これはまず創造主と被造物の境と理解することもできますが、同時に被造物の間にある境と理解することもできます。その領域を越えて介入すること、相手の存在を脅かすことに対

する警告です。どうでしょう、人間はこれを平気で越えてきたのではないのでしょうか。自分たちがまるでその権利を持っているかのように、平気でその境を踏み越えていく。越ええないその掟を破るのです。そこに神のように振る舞う人間の傲慢、罪の現実があります。詩編の中に「神に僅かに劣るものとして人を造り、なお、栄光と威光を冠としていただかせ、御手によって造られたものをすべて治めるようにその足もとに置かれました」（詩編8：6～7）とあります。本来、人間には神さまが造られた世界、被造物全体を治める責任があります。けれども罪ゆえにこの責任を放棄してしまいました。このままでは地球はますます破壊され、人類は破滅への道を突き進むことになるでしょう。

今日はローマの信徒への手紙を読みました。「被造物は神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます」（8：19）とあります。さらには「被造物が共にうめき、共に産みの苦しみを味わっている」（8：22）と言います。これはまさに被造物が人類の罪によって苦しめられ隷属に捕らわれている状態です。しかしこの悲鳴をあげている被造物がやがて「滅びの隷属から解放されて、神の子どもたちの栄光に輝く自由にあずかれる」（8：21）と言います。その救いがイエス・キリストによってもたらされました。「主は命じられ、すべてのものは創造された」（5節）とあるように、すべてのものは神さまの言葉によって造られました。そして神さまはキリストを与えて、罪により壊れてしまった世界を、もう一度、このキリストという命の言葉によって新しく造り変えてくださいます。キリストによる再創造がこの詩編にも約束されています。

クリスマスの物語に羊飼いたちにキリストの誕生が告げられたとき、天に賛美があふれた話があります。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ」（ルカ2：14）148編の賛美もこのような賛美なのかもしれません。天も地も喜び歌う。すべての被造物が造り主の前にひれ伏して、その御業を讃える。そこに全被造物のハーモニー、真の平和があります。その救いをイエス・キリストが始めてくださいました。

天の父よ。あなたの創造の御業は素晴らしく、すべてのものが天からも地からもあなたに向かって賛美をいたします。ところが人間は罪を犯し、被造物は滅びの隷属の中に捕らわれてしまいました。けれどもそこからわたしたちを救い出すためにあなたは御子イエス・キリストを与えてくださいました。どうぞすべての造られたものがあなたの救いによってあなたをほめたたえることができますように。世界に平和がもたらされますように。主の御名によって祈ります。アーメン。